

才一軍作戦経過概要

昭和十二年十二月二十五日
才一軍参謀部才一課

本作戦経過概要は軍の作戦を基調とせる才一軍作戦経過の概要を記述せるものにして参謀部才一課に於て作業せるものなり

目次

- 才一章 作戦準備
- 才二章 涿州保定会戦
- 才三章 石家莊及滄陽河附近の会戦
- 才四章 太原攻略戦
- 才五章 宋哲元軍掃蕩戦
- 才六章 十二月下旬に於ける軍の態勢

才一章 作戰準備

八月三十一日北支方面軍才一軍才二軍の戰鬥序列を命せられ才一軍は軍司令官香月中將統率の下に才六、才十四、才二十師団を隸下に與せらる

當時軍司令部は漸く内地を出発する頃なりしも參謀の大部は既に天津に到着し作戰準備に着手しあり

三、九月一日北支那方面軍の任務は速に中部河北省に於ける支那軍を撃滅して平津地方の安定確保を策するに在るを示され茲に軍は平漢鐵道方面に在りて方面軍の中部河北省に於ける會戰を準備す

三、九月一日頃に於ける才一軍各兵團の態勢概ね左の如し
才六師団主力は黃村南方地区に在り但歩兵才三十六旅團一二大隊欠一を基幹とする部隊は門頭溝西方山地内に、歩兵才十三旅團二大隊欠一は天津に分置せられあり

才二十師団主力は長辛店南方地区に在り但歩兵才七十九旅團一

大隊欠一は豐台、南苑に、歩兵才七十七聯隊の一大隊は郎坊に其
他天津飛行場に歩兵二中隊、門頭溝に歩兵一中隊を分置せられぬ

師団は応急動員を以て出動し其充足人馬は目下朝鮮より輸送中な
り

3. 才十四師団は目下内地より船舶輸送中にして九月二日先頭を以て
塘沽に上陸する豫定なり

四、当時中部河北省に進出せる敵兵力は約四十万に達せるものの如く保
定及滄州の各北方地区には各々正面六、七十軒に亘り外環を有する
稍堅固なる敵陣地あり、涿州——固安及雄縣——馬廠の線附近には
夫々有力なる敵兵団ありて近く才一、才二軍の部隊と構接す
察哈爾省内に於ける敵軍主力は懷來平遠に進出せる才五師団の補撃
を蒙り西方に退走中なり

即ち当時方面軍に於ては敵は保定滄州の線に於て頑強なる抵抗を行

よものにして永定河々畔に在るものは前進兵団なりと判断しありき
其前記の状況に基き九月四日方面軍司令官寺内大将の天津到着と共に
方面軍は保定、滄州の線附近の敵を撃滅する目的を以て速に易州、
定興白溝河鎮、藁城及馬營附近の線に進出し爾後の攻撃を準備する
に決し才一軍に命ずるに才十團師団の編成に伴ひ遼西の敵先進兵団
を撃滅して易州、定興、白溝河鎮及藁城附近(含む)の線に進出し
保定附近の敵に対する攻撃を準備すべきを以てせり

六、茲に於て同日軍は先づ涿州、固安附近に在る敵を撃滅して定興東西
の線への進出を準備するに決し攻撃開始を九月十一日と決定せり之
が為才二十師団は遼西の敵を撃滅して蘇州南方地区に進出するの準備
をなさしめ才六師団は固安(含む)以東の地区より永定河を渡河
攻撃し定興附近に進出するの準備をなさしめ又才六師団は門頭溝西
方山地に在る部隊は之を牛島支隊と名付け軍直轄とし前任務一敵の
前進を阻止し軍の側背を掩護すを続行せしめ才十團師団をして才

六師団の渡河直後固安（含まず）以西に於て渡河し涿州南方地区に
進出するの準備をなさしむ

セ然るに敵は永定河々畔に逐次兵力を増強し陣地も亦日々強化しある
を以て九月七日軍は単に之を殲滅するに止まらず北上しある敵を捕
捉殲滅するを適当と考へ攻撃開始を若干日延期し才二十師団充足人
馬の到着、才六師団分置部隊の集結、才十四師団大部の到着完了を
待つて大攻撃するに決し従来北京西方地区に集中中なりし才十四
師団を龐各鎮附近に集め攻撃準備をなさしむ

八九月十一日軍司令部は豊台に移動し茲に涿州保定会戦の幕は切つて
落されんとするに方り將兵の意氣天を衝くものあり
九十月十一日頃に於ける才一軍方面の状況要図才一の如し

才二章 涿州保定会戦

一九一九年十一月十一日 曇天

此日午後一時各師団作戦主任參謀等を聯合軍司令部に集め攻撃に関する軍命令を下達す即ち軍は重点を才六、才十四師団正面に保持し当面の敵を攻撃し保定以北の地区に於て捕獲殲滅するに決し牛島支隊は前任務を続行せしめ才二十師団は十五日日没以後行動を起し当面の敵を攻撃し涿州北方地区に於て之を殲滅したる後速に易県南方地区に進出せしめ才十四師団は十四日日没以後行動を起し当面の敵を攻撃し拒馬河を越えて涿州南方地区に進出し才二十師団正面の敵の退路を遮断せしめ才六師団は十四日日没以後行動を起し当面の敵を攻撃し固安南方地区に於て之を殲滅したる後機を逸せず定興附近に進出せしむ

一九一九年十一月十三日 夜明前豪雨其晩後快晴

牛島支隊は本日遂に千軍台附近の敵陣地の嶺端たる標高一一〇〇高

地を奪取して敵の死命を制し敵の企図を挫折せるを以て軍は歩兵三
大隊を發遣し爾余を原所屬に復帰せしむ

晴雨定まらざりし天候も八日頃より漸く快晴続きとなり十二日夜豪
雨ありたるも十三日より全く天候恢復せり

三九月十四日 快晴

正午才十四師団は楡生嶺西方の敵の配備薄く敵兵退却するにあらず
やと判断し独断渡河攻撃を開始し夕刻頃既に北公由の線に達せり

才六師団は才十四師団の攻撃開始を知り午後二時四十分北各義、梁
各庄附近に於て渡河攻撃を開始し午後四時頃前岸に進出し繞て牛籠
嶺方向に追撃中なり

才二十師団は本日敵陣地前の要地たる天子山を奪取せり

軍は右情況に鑑み才二十師団をして準備完了才当面の敵を攻撃せ
しむ

四九月十五日 快晴

軍司令官は良郷戰鬥司令部に知り親しく才二十師團方面の戦況を觀察す

才二十師團は此日午前十時頃より攻撃を開始し房山北方に數線に陣地を占領し執拗に抵抗する敵に対し力攻す

才十四師團は追撃を続行し夕刻頃拒馬河左岸の線に達し渡河を準備す

才六師團の情況明かならず通信全く絶え飛行機も亦真相を捉ふる能はず

軍は才十四師團の状況に鑑み一挙に保定西北方地区に向ひ追撃するに決し才二十師團は易県附近に、才十四師團は易県西南方地区に、才六師團は清城北方地区に向ひ追撃せしむ

五月十六日 快晴

才二十師團は朝来攻撃を続行し房山西南方高地の線に進出せるも敵亦頑強に抵抗し師團は夜に入るも攻撃を続行しあり

七

才十四師団は昨夜来西曹莊附近に於て拒馬河を強行渡河し多大の死傷を生ぜるも之に屈することなく午後二時頃主力の渡河完了と共に松林店に向ひ追撃前進せり
才六師団の状況夜に入り漸く判明す之に依れば同師団は牛駝鎮東方地区に於て未知の大濕地帯に遭遇し多大の努力を以て之を突破し此間敵の抵抗を打破しつゝ前進し本十六日夕刻牛駝鎮東方地区に進出せり

六、九月十七日 快晴

軍は千軍台方面の敵兵退却に伴ひ歩兵一大隊を三家店に残置し爾余を高碑店に集結軍予備隊たらしむ

才二十師団は夜間攻撃に引続き追撃に移り本日夕刻頃涿県西方地区に達せり

才十四師団は本朝松林店東側に達して京漢線方面の敵退路を遮断し敵に多大の損害を與へ午後更に涑水方面に追撃に移れり

才六師団は本朝牛鹿嶺を越し西進し夕刻頃辛橋附近の拒馬河左岸の線に達せり

軍は追撃有利に進展中なるを以て才十四師団をして石板山附近に才六師団をして瀋城北方大冊河北岸高地に各々一部兵力を先遣せしめて軍の保定会戦を有利ならしむ

七月十八日 快晴

軍は三家店に殘置すべく命じたる歩兵一大隊をも引上げ千軍台支隊主力と行動を共にせしむ

才二十師団は諸所に敵を撃破しつつ追撃し午後四時頃拒馬河右岸鎮江營、孫家莊の線に進出す

才十四師団は南北義安及高碑店北側にて有力なる敵を撃破し主力は涇水南方地区の一部は高碑店附近に達す

涇州城は本日午前才二十、才十四師団の部隊南北より攻堅して之を占領せり

才六師団は渡河材料未着の爲拒馬河渡河に時間を要し夕刻迄に歩兵一聯隊強を渡河せしめ主力は繞つて渡河中なり

軍は当面の敵は潰乱して退却中にして保定附近の敵陣地は追撃の余勢を以て一挙に攻撃するを適當と認め作戰計畫を一部変更するところあり即ち午後六時軍は更に保定西方地区に次て石家莊に向ひ追撃を続行するに決し才二十師団をして易州より石板山附近に向ひ突進し方順橋附近に進出して敵の退路を遮断せしめ才十四師団は溝城附近の敵陣地を突破し保定西方地区に進出して敵を撃滅せしめ才六師団は平漢鐵道方面より当面の敵を攻撃し保定附近に進出して敵を撃滅せしめ一聯隊を逸せず歩兵旅団長の指揮する歩兵一聯隊、野砲一大隊を基幹とする追撃隊を平漢鐵道に沿う道路を石家莊に向ひ追撃せしめ尙各師団所命目標に進出せば速に隊伍を整頓し爾後石家莊に向う追撃を準備せしむ

午後九時発令の方面軍命令に依り才一軍は保定附近の敵陣地を突破

し正定附近に向ひ追撃すべきを命ぜらる之と同時に才二軍は主力を以て滄州より正定方面に急進し敵の退路を遮断すべく命ぜられたるを知る

八月十九日 快晴

才二十師団は夕刻易州を占領す

才十四師団は北汝河一涇水西南方十軒一宮室村一定興西方十軒の線に達し続けて追撃中なり

才六師団は夕刻頃先遣隊を以て牛莊一定興東南方約十軒に達し主力の先頭は梁家營一新城西北方約四軒に達せり

琉璃河の鉄橋修理ならず鐵道の推進意の如くならざるを以て軍は才一線兵団の補給は目下の急務なりと認め後方より追及する軍直轄砲兵等の前進を一時停止せしめ兵站自動車隊を以てする補給の推進に努め兵站亦絶大なる努力を払ひたる結果本日高碑店に末地を進むことを得たり

九月二十日 快晴

軍は依然追撃を続行し才二十師団は唐湖鎮、才十四師団は姥村才六師団の一部は徐水に進入せり

九月二十一日 曇後晴

軍は概ね大册河々畔敵陣地の前面に到達せり

才二十師団は白堡北方の谷地を追撃中なり

才十四師団は夕刻大册營一溝城東北方約八軒一南側地区及大曲城一六册營東南約六軒一附近に達し繞て大册河々畔の敵既設陣地に対し歩兵のみを以て夜間攻撃を強行せり

才六師団は主力を以て徐水に達し二十二日扈曉より干坊一徐水西方約十五軒一方面より敵陣地を突破する為転進せり

九月二十二日 晴

才二十師団は石板山附近の敵陣地を突破し南進しつつあり

才十四師団の昨夜に於ける夜襲は多大の損害を生ぜるも各部隊の勇

戦に依り満城東北方の敵陣地を突破し夕刻頃満城東方地区を保定西方地区に向ひ追撃中なり

才六師団は二十二日払曉の攻撃は準備完からず二十三日払曉に攻撃開始を延期せるも午後三時に到り才十四師団方面の状況を知り午後三時頃より急襲攻撃を開始し干坊附近を突破して南進せり

九月二十三日 晴

才二十師団は方順橋附近に達し敵の退路を完全に遮断せり

才十四師団は保定城西方及西南方地区に進出して敵の退路を遮断し且才六師団の保定城攻撃に協力す

才六師団は朝来保定城壁の陣地前に肉薄せるも砲兵の招致稍遅れ薄暮に至り砲撃を開始せるも未だ攻陥するに至らず

軍は以上の状況に鑑み一部を以て敵を追撃せしめ主力は保定附近に於て隊伍の整頓を為したる後速に石家莊に向ひ追撃するに決し才六師団に命じありたる追撃隊に才十四、才二十師団より合戦歩兵三大

一三

隊、野砲二中队等を増加して軍追撃隊となし石家莊に向ひ追撃せしめ爾余の主力は方順橋、保定附近に於て隊伍を整頓せしむ、而して前進開始の時機は九月二十九日朝と予定せり

去九月二十四日 晴後曇

才六師団は払曉以來砲兵の協力の下に攻撃を再興し午前九時四十分西北角を占領するを契機とし茲に保定城は陥落し同師団は午後入城せり

才二十師団は完県附近に才十四師団は保定西側地区に、才六師団は保定東側地区に集結し隊伍の整頓を行う

去九月二十五日 雨後晴

軍司令官は此日午後汽車により保定駅に到着し保定城に入城し軍司令部を河北省政庁に定む

去涿州保定会戦に於ける各兵団の死傷並敵に與へたる損害は別表の如し

去涿州保定会戦の経過別紙要図の如し

別表

派州保定会戦戦死傷概数表

才一軍軍医部調

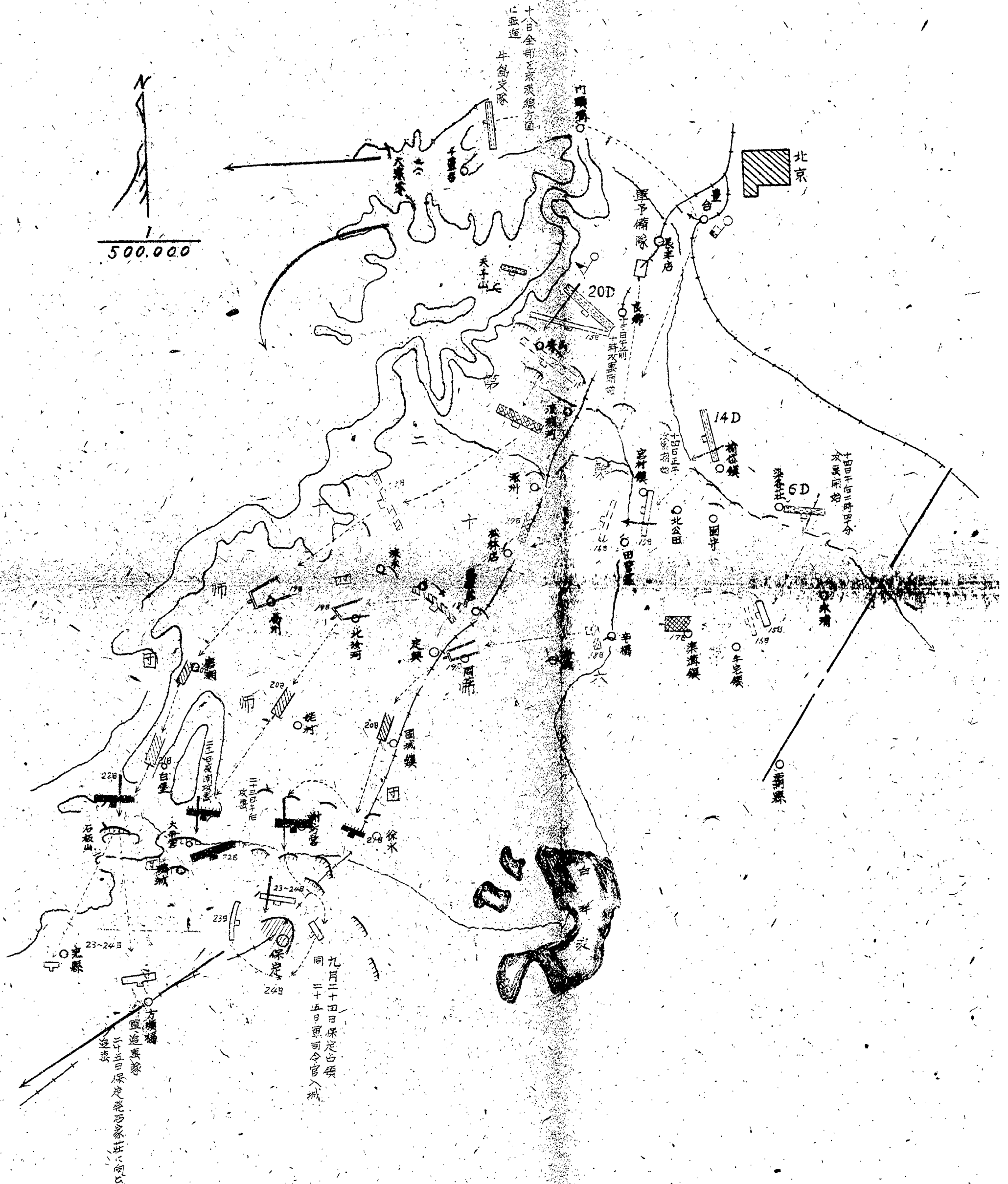
備考	区分		
	戦死	戦傷	
	牛島支隊	一七九	三九九
	才六師団	二四三	八七二
	才十四師団	四六一	一二三九
	才二十師団	一四一	五三九
	軍直屬部隊	二三	三四
	計	一〇四七	三〇八三

本表は各部隊よりの報告により調製したるものなるを以て必ずしも正確を期し難し

涿州保定会戦敵に與へたる損害概数表

考	区 分		人 員	押收兵器
	部 隊	数		
各兵團よりの報告に基き記載す	牛島支隊		一三〇〇	後に纏めて記載す
	才六師団		七九〇〇	
	才十四師団		八八〇〇	
	才二十師団		八〇〇〇	
	計		二六〇〇〇	

第一軍涿州保定会戦經過一覽圖 (自 9月14日 至 9月24日)



才三章 石家莊及滄陽河附近の会戦

一、軍は涿州保定会戦後九月二十四日以來保定附近に主力を集結し隊伍の整頓を図る此間軍追撃隊は平漢鉄道に沿う道路を追撃し九月二十七日新樂に達し軍命令に依り同地附近に停止し爾後の行動を準備せり

二、塘沽にコレラ発生し又石家莊附近の支那軍中にも九月二十日頃同病発生せる議報ありたるを以て軍は命令を發し保定附近集結間才一團予防接種を又爾後に於ける行軍間の休日を利用し才二團の予防接種を行はしめ患者発生を為作戦の拘束せらるゝが如きことをからしめたり

三、九月二十四日才百八師団は軍の指揮下に入らしめらるゝ、該隊は九月三十日頃徐水附近に到着する予定なり

四、九月二十八日保定に於て石家莊附近に向う追撃に關し命令す、即ち軍は十月一日行動を起し石家莊に向ひ追撃するに決し軍追撃隊は新

樂に位置し軍の前進を掩護せしめ各師団は十月一日行動を起し十月
九日迄に才二十師団は山脚に沿う地区を前進して靈壽西北方地区に
才十四師団は概ね平漢鉄道以西の地区を前進して正定西方地区に才
六師団は概ね平漢鉄道以東の地区を前進して正定東北方地区に集結
し爾後の攻撃を準備せしむ但十月四、五兩日は曲陽、定県、安国を
連ぬる線附近に於て休止せしむ
才百八師団は軍の才二練兵団として保定街道を前進し正定北方地区
に集結せしむ
五才二十、才十四、才六師団は十月一日より所命の如く行動を起し三
日曲陽定県線の附近に達し休止す、才百八師団は三日徐水附近を出
発し概ね才六師団の進路を前進す
六軍は二十四榴、十五初等の攻城砲を正定攻撃に参加せしむる為鉄道
の開通を待つて軍追撃隊一部の掩護の下に各師団の進出に先ち東長
壽駅に下車開進せしむ

七月四日定果に命令受領者を集め石家莊附近の敵に対する攻撃命令を下達す、攻撃計畫の概要左の如し又当時軍に於て知り得たる敵兵團の配置別紙要圖の如し

方針

1. 軍は十月九日より攻撃を開始し敵を石家莊附近に於て殲滅す
2. 敵兵退却せば速に南方に追撃し漳沱河、滎陽河中間地区に在る敵と共に之を順徳以北に於て捕捉す
3. 順徳以南への追撃は当時の状況に依る

各兵団行動の概要

4. 才二十師団は十月九日より漳沱河々畔の敵を攻撃し之を東南方に圧迫する如く石家莊南方高遷附近に進出して敵の退路を遮断す此間有力なる一部を正太鐵道に沿う道路を太原方向に追撃し可成遠く該鐵道を確保せしむ

5. 才十四師団は十月十日より漳沱河々畔の敵を攻撃し石家莊西方地

区に進出す

二〇

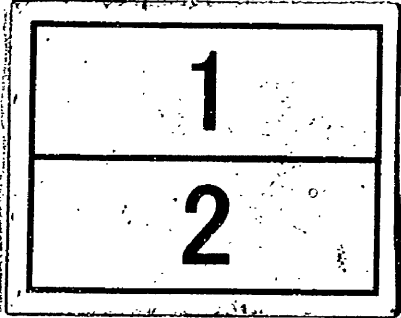
次で機を逸せず平漢鐵道及之に沿う道路を順德東西の線に追撃す
六才六師団は準備完了次才先づ正定を略取したる後津沱河々畔の敵
を攻撃して石家莊東南方地区に進出す

次で機を逸せず主力を以て道州附近に各一部を以て寧晉及柏郷附
近に追撃し津沱河、滏陽河中間地区に在る敵の退路を遮断す

津沱河渡河攻撃開始は軍命令に依る

七才百八師団は当初正定北方地区に位置し才六師団戦列部隊の津沱
河渡河に続き才六師団攻撃の戦果を擴張する如く東原附近に進出
して敵を殲滅す

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 版以上のため
文書等名	滹沱河右岸敵兵団配置要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

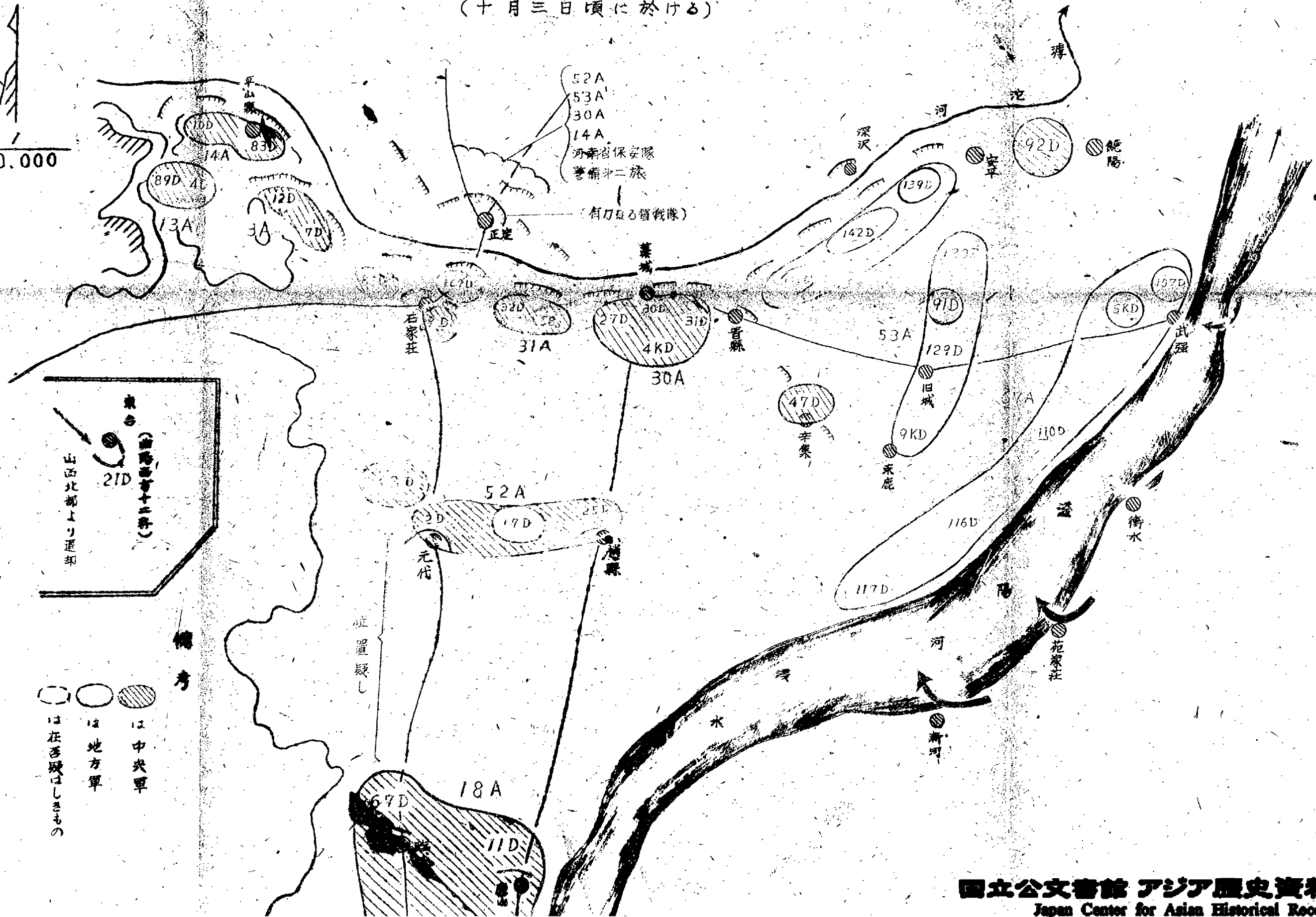
1498
1499

滹沱河右岸敵兵團配置要圖

(十月三日頃に於ける)



別紙要図 其の一



八十月六日 快晴

才二十、才十四、才六師団は曲陽、定県の線附近より一齊に前進を開始す唐河、沙河、木道溝河は何れも上流に至る程却て車輛部隊の渡渉困難なる状況なりし為師団は絶大の努力を以て応用架橋を行ひつゝ前進せり

午前九時発令の方面軍の攻撃命令を受領す之に依れば方面軍は河北平地の敵戦力を一挙覆滅する為才一軍は適時攻撃を開始し特に敵の退避を捕捉するに遺憾なきを期すべく命ぜられ且攻撃の重点を石家莊附近に指向し敵線を突破せば順徳附近に向ひ敵を急追すべきこと及機を失せず一部を以て井陘以西の要地に進出し敵の山西方面に対する交通を遮断せしむると共に爾後才五師団に策応せしむべきことを要求せらる

当時才五師団は太原攻略の任務を有し目下原平鎮を攻撃中なり又才二軍主力は滹陽河に沿ひ西南進中にして才十六師団の先頭は范家莊

三一

附近才百九師団は深泉附近に運せるもの、如し

九月七日 曇

軍司令官は戦斗司令所を新樂に進む

才二十師団は靈壽、田營鎮附近に於て偶々北上せる約二ヶ師の敵と遭遇し之に殲滅的打撃を與へたり

才十四師団は正定西北方の西房頭附近に集結し攻撃準備中なり

才六師団は先遣部隊を以て北二十里鋪の敵前進陣地を攻略し正定に對する攻撃を準備中なり

軍の攻撃準備順調に進捗したるを以て軍は攻撃命令を下達し予定計畫に基き当面の敵を攻撃せしむ但才六師団津沱河渡河攻撃の時機決定竝才百八師団の津沱河渡河の細部に関し現地に於て区別せしむる必要上軍參謀を派遣す

七月十八日 晴

才二十、才十四師団は津沱河々畔に進出し攻撃準備中なり

才六師団は攻城砲各種野戦重砲等を展開し約百門の砲兵協力の下に
正定城攻撃を開始し午前十一時頃城壁東北角を占領して九日猛襲迄
に城内の掃蕩を概ね終れり

軍は才六師団に派遣せる軍参謀の意見具申に基き同師団をして十月
十日夜淳沱河を越へて攻撃せしむ

十月九日 晴

才二十師団は一部を以て田興附近主力を以て王母村附近に集て夕刻
より渡河攻撃を開始せり

才十四師団は依然渡河準備を続行す

才六師団は正定の掃蕩を終り海岸の線に進出して渡河準備を行ふ

十月十日 晴

才二十師団の一部は田興附近の渡河に成功し井原に向ひ追撃に移れ
り師団主力は昨夜本流を渡河して中洲に進出し才二水流を午前八時上
り渡河攻撃し引続き追撃に移れり

才十四師団は正面の敵兵退却の兆あるに鑑み予定計畫を繰上げ発見
せる左翼隊正面の渡渉点より渡河攻撃を開始し右翼隊亦転進して之
に続行し無人の境を行くが如く追撃に移り先頭部隊の一部は午後二
時早くも石家莊に進入せり
才六師団は才十四師団の状況に鑑み午後一時より砲撃を開始し午後
三時頃より敵の抵抗を排除しつゝ晝間敵前強行濬渡に成功し日没頃
南十里舖の線に進出せり
才百八師団は正定北方地区に集結を終れり
軍は以上の状況に鑑み滹沱河河畔の敵は多大の損害を被り才十四、
才二十師団正面に於て退却を開始せるものと判断し会戦の成果を擴
張し一挙に敵を殲滅せんとし各師団をして敵を追撃し速に所命地点
に進出せしむ又才十四師団の追撃を迅速ならしむる為兵站自動車四
中隊を配属せり是より先才二軍との作戦地境を肅寧、深沢、晉県、
滄州の線に延伸せられたるを以て才六、才百八師団の追撃は前記作

二四

1503

戦地境の線に停めしむ

十月十一日 小雨風強く後曇

正定南側渡沱河は泥深く仮橋は輻重車輛を通ずるのみなるの状況なりしを以て軍の派遣參謀は軍橋を架設し才六師団の車輛部隊才百人師団の主力兵站自動車隊等を橋梁に依り渡河せしむる如く区処せり軍は才二軍の部隊高邑方面への突進に依り友軍相撃の危険を避くる為方面軍に指導を要求せり

才二十師団右側支隊は午後四時井陘を占領せり同師団主力は寶炬村附近に進出せるを以て軍は之を石家莊に近く集結し隊伍を整へしむ才十四師団の追撃隊は元氏北方地区に進す才六師団は夕刻趙州に進せり

以上の情況に鑑み 軍は順徳、趙州附近進出後速に隊伍を整頓し繞て兩方に向ふ追撃を準備するに決し才二十師団は右側支隊をして前任務を繰行せしめ主力は所命地点に進出せば速に隊伍を整頓する

二五

と共に隨時主力を以て太原方向に作戦し得るの準備をなさしめ、^{二六}才十
四師団は一部を以て邯鄲に追撃せしめ、主力は順徳附近に於て隊伍を
整頓し、彰徳に向ふ追撃を準備せしめ、彰徳に向ふ前進開始の時機は
別命す。才六師団は趙州、樂城の間、於て速に隊伍を整頓し、^一才
六師団は上海方面に転用せらるべき旨、方面軍より指示せられたり。
隨時他に機動するの準備に在らしめ、才百八師団は美化鎮附近に於て
速に隊伍を整頓し、趙州、泊郷を経て兩方に向ふ追撃を準備せしめ、攻
城砲兵、野戦重砲兵の一部等は正定に集結待機せしむ。

去十月十二日 快晴

才十四師団追撃隊は元氏北方地区に於て有力なる激陣地に対し攻撃
中にして、才六師団追撃隊は趙州南方地区に於て殿退の激に遭及し、激
滅的打撃を予へつゝあり。
軍は茲に於て才六師団をして橋郷に據せしめ、追撃隊を冀成内域に向
ひ追撃せしめ、主力は趙州に停止し、爾後の行動を準備せしむ。

此日方面軍より才一、才二軍間の作戦地境を趙州、柏郷、南種を連ぬる線に延伸せられ且才六師団等を石家荘附近に集結すべきを命ぜらる

庚十月十三日 晴

才二十師団右側支隊は井陘を占領し其廻登部隊は旧関に達し続て西進中なり

才十四師団追撃隊の元氏附近の戦斗は激烈を極め縦深約八杆に亘り前後十三回之突撃を反覆し遂に血戦をさる者なき状態にて敵を撃滅し続て兩方に追撃前進せり

才六師団追撃隊は柏郷西南方地区に達し続て西陣に向ひ追撃中なり才二軍才十六師団は寧晉附近に集結し才百九師団は寧晉附近を経て隆平(唐山東方)方向に向ひ追撃を企図しあり軍は才二軍との作戦地境を延伸せられたるを以て才百八師団は趙州を経て主力を以て柏郷附近の一部を以て任県附近に向ひ追撃せしむ

癸十月十四日 晴風あり

二八

才二十師団右側支隊は地都田附近にて奮戦中なりとの報あり又一方に於て娘子関を突破し西方に進出する部隊を見たりとの飛行機の報告もあり該方面の状況混沌として不明なるを以て軍參謀を才二十師団に派遣し真相を調査せしむ

才十四師団追撃隊は高邑兩側の大濕地帯に遭遇前進意の如くならずりしも別に機械化追撃隊は趙州より柏郷を通過し順徳に向ひ追撃中なり

才六師団の追撃隊は内河に達し隊伍を整頓しあり

才八師団の追撃隊は趙州を通過柏郷に向ひ追撃中なり

才五師団は昨十三日以来忻口鎮附近の敵陣地を攻撃中なるを以て軍は一部を以て才五師団の太原攻略に策応せしむるに決し才二十師団長をして右側支隊に歩兵三大隊、独立山砲兵聯隊の主力其他所要の部隊を増加し才五師団の太原攻略に策応せしむる目的を以て先づ速に陽

1507

泉平地に進出せしむ

右十月十五日 曇後雨後晴

軍司令部は石家莊に前進す

才二十師団は娘子関方面の状況に鑑み取敢へず歩兵一大隊山籠一中隊を急派せり師団主力は石家莊西偏地区に集結を終る

才十四師団主力は午後四時頃順徳に進入し其機械化追撃隊は沙河兩岸地区に達せり

才百八師団主力は趙州南方地区に其追撃隊は任県附近に達せり

大十月十六日以後の状況

新樂の鉄道橋上に於て汽関車脱線半は墜落し復旧に約一週間を要すと云ふ、追撃部隊の補給、輜重部隊の輸送に一大差映を生ぜり、同鉄道橋は木村部隊不休の努力に依り十月二十二日開通せり、

才十四師団は機械化追撃隊及鉄道追撃隊を以て更に追撃を続行し十七日邯鄲を占領し十八日漳河の線に達せり爾後漳河南岸に立脚處を

二九

占領する為行動中なりしが二十七日頃には豊樂鎮、豊樂鎮駅東保隊
附近を各一部を以て占領し豊樂鎮及鉄道橋附近に架橋を完成せり
團主力は追撃隊に続行し二十七日頃には順徳村神間に集結し臨瀧対
應の準備を整へあり

才百八師團の追撃隊は任保、阿郭鎮、廣平を経て追撃を続行し十九
日肥郷附近に搜索拠点を占領せしが二十三日肥郷附近に於て二十四
日成安附近に於て該方面に進出せる敵を攻撃して多大の損害を与へ
爾後肥郷成安附近に集結しあり同師團主力は二十七日頃臨瀧關東方
馬園附近に、歩兵才百四旅團主力は軍直轄として趙州附近に、別に
歩兵才百五聯隊は軍直轄として石家莊に位置し各々附近の安定に任
じあり。

夫石家莊及滄陽河附近の会戦に於ける各兵團の死傷並敵に与へたる損
害は別表の如し

手石家莊及滄陽河附近の会戦経過別紙要図の如し

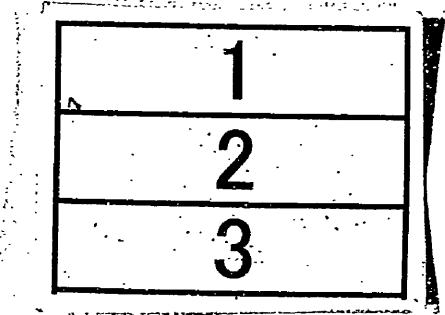
別表

備考	石家莊及滄陽河附近の金戦戦死密数		軍医部調	
	区分	戦死	戦傷	計
	才六師団	五八	三〇九	
	才十師団	九四	三四〇	
	才二十師団	二〇	一三八	
	才百八師団	一六八	一九八	
	軍直屬部隊	九	三〇	
	計	三二九	一〇〇二	

本表は各部隊よりの報告により調査したるものなるを以て必ずしも正確を期し難し

備考		石家莊及遼陽河附近会戦敵に与へたる損害統数表			
		区	分	人	員
各兵団よりの報告に基き記載す		才六師団		九八〇〇	押収兵器 後に纏めて記載す
		才十四師団		二二四〇〇	
		才二十師団		二八〇〇〇	
		才百八師団		三七〇〇〇	
		計		四三七〇〇	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	第一軍石家荘及滄隊河附近の 会戦経過要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

1512
1513
1514

第一軍石家莊及滄陽河附近的會戰經過要圖

自十月一日至十月二十七日頃

